

商品概要	設定日	2018年5月31日	信託期間	2031年4月28日まで	決算日	4月27日および10月27日 (休業日の場合は翌営業日)
------	-----	------------	------	--------------	-----	------------------------------

運用実績

【過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。】

■ 基準価額の推移 (課税前分配金再投資ベース)



※基準価額は信託報酬（後述の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※参考指数 (Russell/Nomura Small Cap インデックス(配当込み)**) は設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

■ 謙落率 (課税前分配金再投資ベース)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	-0.04%	7.01%	28.80%	22.19%	49.38%	48.12%	37.19%
参考指数	2.04%	12.23%	20.59%	24.69%	74.70%	96.06%	79.83%

※基準価額の謙落率は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

■ 基準価額と純資産総額

純資産総額	951(百万円)
基準価額	13,336円
前月末比	-6円

■ 1万口当たり分配実績 (課税前)

	分配金
第1期～9期	計 0円
第10期 (2023.4.27)	0円
第11期 (2023.10.27)	0円
第12期 (2024.4.30)	100円
第13期 (2024.10.28)	200円
第14期 (2025.4.28)	0円
設定来累計	300円

※分配金は投資信託説明書（交付目論見書）記載の「分配方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断等により分配を行わない場合もあります。

ポートフォリオの状況

【当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。】

■ 資産配分

	純資産比
株式	95.6%
キャッシュ等	4.4%
銘柄数	70

■ 市場別組入比率

	純資産比
プライム	85.1%
スタンダード	3.3%
グロース	7.2%
その他	-
合計	95.6%

■ 組入上位10業種

	業種	純資産比
1	サービス業	20.1%
2	情報・通信業	18.7%
3	小売業	8.6%
4	電気機器	8.3%
5	機械	6.6%
6	非鉄金属	4.2%
7	化学	4.0%
8	不動産業	4.0%
9	その他金融業	2.8%
10	ガラス・土石製品	2.5%

※業種は東証33分類に基づいています。

■ 組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	純資産比
1	トーセイ	不動産業	3.2%
2	パルグループホールディングス	小売業	3.1%
3	プレミアグループ	その他金融業	2.8%
4	エムアップホールディングス	情報・通信業	2.7%
5	リゾートトラスト	サービス業	2.5%
6	三井E&S	機械	2.4%
7	日本M&Aセンターホールディングス	サービス業	2.3%
8	サイバーエージェント	サービス業	2.2%
9	武蔵精密工業	輸送用機器	2.2%
10	シンプレクス・ホールディングス	情報・通信業	2.1%

※業種は東証33分類に基づいています。

** Russell/Nomura Small Cap インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村證券株式会社およびFrank Russell Company に帰属します。なお、野村證券株式会社およびFrank Russell Company は、当インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、インデックスの利用者およびその関連会社が当インデックスを用いて行う事業活動・サービスに關し一切責任を負いません。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

設定・運用 :

インベスコ・アセット・マネジメント

[商号等]インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号

[加入協会]一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

ポートフォリオの状況

【当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。】

■ 基準価額に影響を与えた銘柄

プラス寄与

銘柄名	業種	影響額	コメント
オリオンビール	食料品	40円	沖縄県を拠点に酒類清涼飲料の製造・販売を中心に、観光・ホテル事業などを行っており、9月25日に上場しました。
トーセイ	不動産業	35円	10月月初に発表される2025年11月第3四半期決算に向けて、好業績が期待され上昇しました。
ジャパンマテリアル	サービス業	31円	半導体市況の回復期待や、生成AI関連株の急上昇から、連れ高しました。

マイナス寄与

銘柄名	業種	影響額	コメント
エムアップホールディングス	情報・通信業	-69円	8月の急上昇で上場来高値を取った所から、利食い売りが発生しました。
大阪ソーダ	化学	-31円	肥満症治療薬メーカーの株価が軟調に推移しており、精製材料を提供している同社の株価も連れ安しました。
ボーダルア	情報・通信業	-28円	8月の急上昇の反動から利食い売りが発生しました。

※上記のファンドの基準価額に対する影響額は、マザーファンドのデータをもとに当ファンドの基準価額に対し簡便的に算出しておりますので、実際の数値とは異なります。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。なお当該銘柄の売買を推奨するものではありません。

ファンドマネージャーのコメント

■ 市場環境

9月の国内株式市場はTOPIX、日経平均株価共に過去最高値を更新し、歴史的な上昇が継続する形で6か月連続の続伸となりました。月初こそは下落したものの、米国ハイテク株の上昇を受け、AI関連銘柄が牽引する形で国内株式市場も上昇に転じました。日米関税合意文書の発表およびその後の対日自動車関税引き下げや、石破茂首相の辞意表明を受け、次期政権による財政拡張的な政策への期待の高まり等も株式市場の上昇を支えました。日銀金融政策決定会合では、政策金利は維持された一方で、想定外となるETFとJ-REIT売却の決定が発表されましたが、株式市場への影響は限定的でした。物色動向としましては、AI関連株に加えて、地政学リスクの高まりを受けて鉱業や石油・石炭製品が上昇する等、トップダウンからの動きが見られる中、中小型グロース株が大きく出遅れました。このような投資環境下、各指数の月間騰落率はTOPIXが+2.03%、日経平均株価が+5.18%、東証グロース市場250指数が-4.48%、ラッセル野村小型インデックス（配当込み）が+2.04%となりました。

■ 運用の状況

9月の運用では、割安感の薄れた銘柄の売却を行つ一方、業績見通しの分析から高い利益成長が期待できる銘柄の買付けを行い、ポートフォリオの調整を行いました。具体的には、デジタルアーツを新規購入したほか、武蔵精密工業等の買い増しを行いました。その一方で、シグマクシス・ホールディングス等の一部売却を行つたほか、artienceを全売却いたしました。

■ 今後の投資方針（作成日現在のものであり、市場環境の変動などにより変更される場合があります。）

今後の日本株市場につきましては、国内経済の正常化やそれを踏まえた日本企業の本格的な変化等を手掛かりに、米国トランプ政権による「米国第一主義」政策や日本の自民党総裁選後の政策動向をはじめとした政治情勢、米国等の内外の景気、物価や金融政策に加え、地政学リスクや、あるいは金利、海外株式、為替動向等を睨みながらも、引き続き中長期的には上値をうかがう展開に移行して行くことを想定しております。

国内景気においては、短期的には米国の追加関税策が日本経済の下押し要因となると想定されるものの、春闘で2年連続の大幅な賃金上昇が達成され、個人消費の復活を示唆する経済指標が出てきています。加えて豊富な手元流動性に加え、深刻化する人手不足や収益力強化への対応を見据え、依然として投資意欲は旺盛であることから、設備投資も今後は力強い動きを見せるものと予想しています。また、企業業績は牽引業種が外需から内需にシフトする形で、堅調に推移することが期待できるほか、東証による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」要請やグロース市場の機能発揮に向けた対応の浸透により、今後は中小型株も含めて、収益性向上策や株主還元策の強化を発表する企業の波及も株式市場の下支え材料となることでしょう。貯蓄から投資への流れの中で、個人による金融資産見直しや株式投資への動きもでてきており、引き続き中期的な観点から日本株に対する強気な見方を堅持しております。

以上の見通しの下、今後の運用では現在のポートフォリオ戦略を維持する基本方針に変更はありませんが、業績動向と株価バリュエーションを精査しながら、引き続き保有銘柄の入れ替えなど行う方針です。

デジタルアーツ（情報・通信業）

ネットの有害情報遮断・情報漏えい防止フィルタリングソフトの開発、販売を行う国内最大手です。サイバーセキュリティ対策の必要性が高まる中、同社製品が企業、官公庁で導入が進んでいます。自治体セキュリティ強化の案件が堅調であることに加え、GIGAスクール案件では更新期を迎え、更なるシェアアップが見込めており、今後の継続的な高い成長に期待しています。

※上記コメントは、ファンドの組入銘柄の紹介としての記載であり、売買を推奨するものではなく、また、今後の当ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 主として、マザーファンド※受益証券への投資を通じて、わが国の中小型株式に投資します。
※ ファンドが投資対象とするマザーファンドは、「インベスコ 中小型・成長株 マザーファンド」です。
- 安定的な利益成長が予想される企業や、新しい技術・サービスで高利益成長が期待される企業に投資します。
- 企業訪問を通じた徹底したボトムアップ・アプローチにより、銘柄を選択します。

ファンドのリスク

ファンドは預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではないため、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。

基準価額の変動要因

ファンドは実質的に国内の株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、以下のような要因により基準価額が変動し、損失を被ることがあります。

価格変動リスク

〈株式〉株価の下落は、基準価額の下落要因です。

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績や財務状況、市場の需給などを反映し、下落することがあります。

中小型株式は、一般的に業績の変化が大きく、株式市場全体の値動きよりも株価の変動が大きくなる傾向にあります。

信用リスク

発行体や取引先の債務不履行等の発生は、基準価額の下落要因です。

ファンドが投資する有価証券の発行体が債務不履行や倒産に陥った場合、または懸念される場合、当該有価証券の価格が大きく下落したり、投資資金を回収できなくなることがあります。また、投資する金融商品の取引先に債務不履行等が発生した場合に、損失が生じることがあります。

流動性リスク

流動性の低い有価証券等は、不利な条件での売買となる可能性があります。

市場規模が小さい、または取引量が少ない有価証券等については、市場実勢から期待される価格で売買できない場合や、希望する数量の一部またはすべての売買ができない可能性があります。

*基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申し込みメモ

購入単位

お申し込みの販売会社にお問い合わせください。

*分配金の受け取り方法により、「分配金再投資コース」と「分配金受取りコース」の2コースがあります。

購入価額

購入の申込受付日の基準価額

換金価額

換金の申込受付日の基準価額から、信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として換金の申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

購入・換金申込不可日

—

申込締切時間

原則として毎営業日の午後3時30分まで(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)

*販売会社によっては、より早い時間に申込締切時間を設けている場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

換金制限

投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には一定の制限を設ける場合があります。

信託期間

2018年5月31日から2031年4月28日まで

繰上償還

信託契約の一部解約により、受益権の総口数が20億口を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することができます。

決算日

毎年4月27日および10月27日(ただし、同日が休業日の場合は翌営業日)

収益分配

年2回の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。

*「分配金再投資コース」でお申し込みの場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されます。

課税関係

課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象ではありません。配当控除は適用されます。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入の申込受付日の基準価額に販売会社が定める 3.30% (税抜3.00%) 以内 の率を乗じて得た額
信託財産留保額	換金の申込受付日の基準価額に 0.30% の率を乗じて得た額

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の投資信託財産の純資産総額に 年率1.749% (税抜1.59%) を乗じて得た額とします。運用管理費用(信託報酬)は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。
------------------	--

その他の費用・手数料

- 組入有価証券の売買委託手数料などは、実費を投資信託財産中から支払うものとします。これらの費用は運用状況などによって変動するため、事前に具体的な料率、金額、計算方法および支払時期を記載できません。
- 監査費用、目論見書・運用報告書の印刷費用などは、投資信託財産の純資産総額に対して**年率0.11% (税抜0.10%)を上限**として、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支払うものとします。

* 上記、ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

販売会社（投資信託説明書（目論見書）のご請求・お申し込み先）

岩井コスモ証券株式会社

（金融商品取引業者（近畿財務局長（金商）第15号）であり、日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会に加入しています。）

受益権の募集・販売の取り扱い、投資信託説明書（目論見書）の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資に関する事務などを行います。

■ 当ファンドの照会先

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで）
電話番号：03-6447-3100 ホームページ：<https://www.invesco.com/jp/ja/>

【ご留意いただきたい事項】

当資料は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。本文で詳述した当資料の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。投資信託は、株式などの値動きのある有価証券などに投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益はすべてご投資家の皆さんに帰属します。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関は投資者保護基金には加入しておりません。当ファンドの購入に関しては、クーリングオフ（金融商品取引法第37条の6の規定）制度の適用はありません。当ファンドの購入のお申し込みを行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時に販売会社でお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。